

道の駅のDXによる業務効率化と小規模施設への送客実証事業

現状及び課題、解決策と目指す姿

- ・ 十和田八幡平の観光拠点であり鹿角の食と文化を体感できる「道の駅かつの」には、年間約40万人が来訪しているが、観光客が地域内に滞在・消費せず移動してしまう「通過型施設」となっている。
- ・ 道の駅の指定管理者および第3セクターであるかつのDMOでは日常業務が多忙なうえ、専門的な観光案内スキルのあるスタッフが不足しており、ポスターやチラシなどアナログな情報提供に留まっている。また地域の宿泊・飲食施設では情報発信に必要な人材とスキルが不足しており、Google MAP等の情報が未整備なため、魅力が観光客に届いていない。
- ・ 本事業では、AIによる業務省力化で創出した時間を、地域事業者への伴走支援と対面サービスの強化へとシフトさせる「三位一体」の好循環モデルを構築する。
- ・ デジタルとアナログを融合させた情報提供により、観光客を地域内の小規模施設まで送り込み、通過型から滞在・消費型観光への転換を実現することで、地域全体で「稼げる観光地」の確立と、「誰一人取り残さない」持続可能な観光経営を目指す。

事業概要

生成AIやAI-OCRを導入してバックオフィス業務を大幅に省力化。そこで創出した時間を地域事業者への伴走支援(魅力の深掘り調査等)に充て、DMOが司令塔としてデジタルとアナログを融合させた「AIコンシェルジュ」を開発する。観光客を小規模施設へ送り込み、通過型から滞在・消費型への転換と持続可能な観光地経営を目指す。

取組地域 : 鹿角市・小坂町

コンソーシアム名 : かつの観光DXコンソーシアム

代表事業者 : 株式会社かつの観光物産公社

実証内容

1. 道の駅バックオフィスの業務省力化
2. 地域観光事業者への伴走型デジタル化支援
3. AIコンシェルジュによる最適な観光案内と送客

目標値

KGI 旅行者の属性や好みに応じた周遊提案による行動変容(送客)(230件)

KPI 道の駅のデジタルサイネージ等に設置したQRコードスキャン数(2,300件)

